2026年3月期 第3四半期決算・分析レポート

野村マイクロ・サイエンス (6254) — メモリー市況回復を捉えた「再成長」への転換点

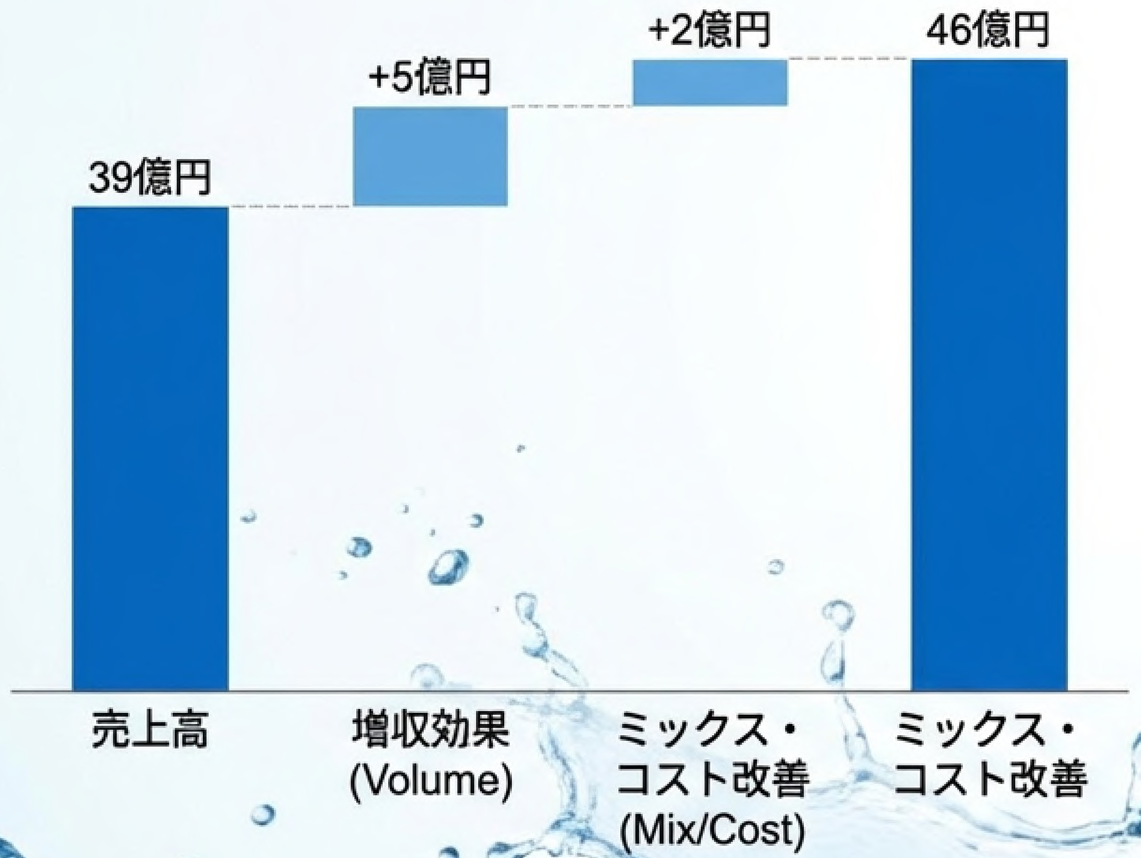
2026年2月25日

主なハイライト

- **業績動向**：3Q累計で増収増益 (売上高 +28.9%、営業利益+18.0%) 。通期計画達成に向け順調。
- **市場環境**：日本・中国が牽引。韓国・米国は底打ちから反転の兆し。
- **投資判断**：「ややポジティブ」。株価収益率33.3倍は割高水準だが、27/3期のサムスン/HBM投資による急回復（変化率）を織り込む局面。

26/3期 3Q決算：増収増益を確保、通期達成に向け順航速度

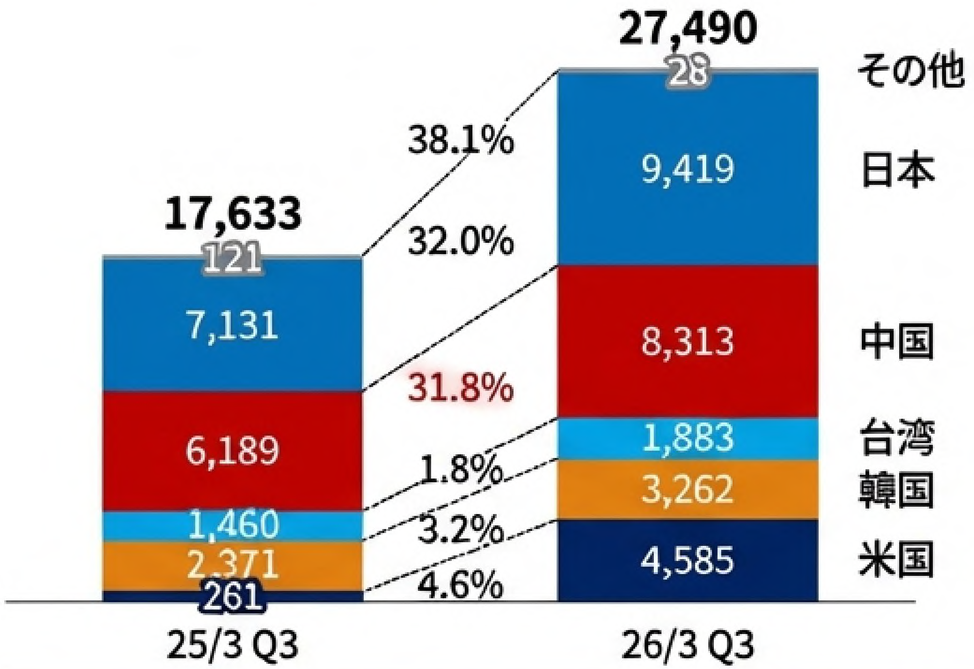
営業利益増減要因



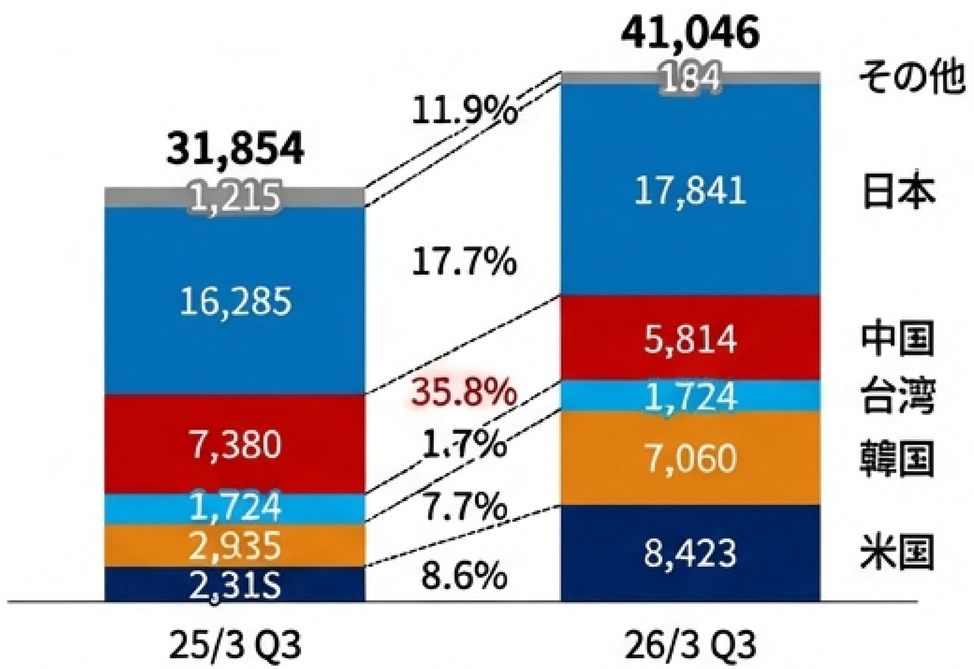
前年同期比(%)	要点
39億円	**売上高:** 410億円 (+28.9%) – 大型案件の進捗が寄与。
+5億円	**営業利益:** 46億円 (+18.0%) – 利益率は11.3%と高水準を維持。
	要点: 減額修正後の懸念を払拭する堅調な進捗。進捗率74.8%は安心感につながる水準。

地域別受注推移：米国・中国が牽引、大幅な増加

地域別受注推移（累計）



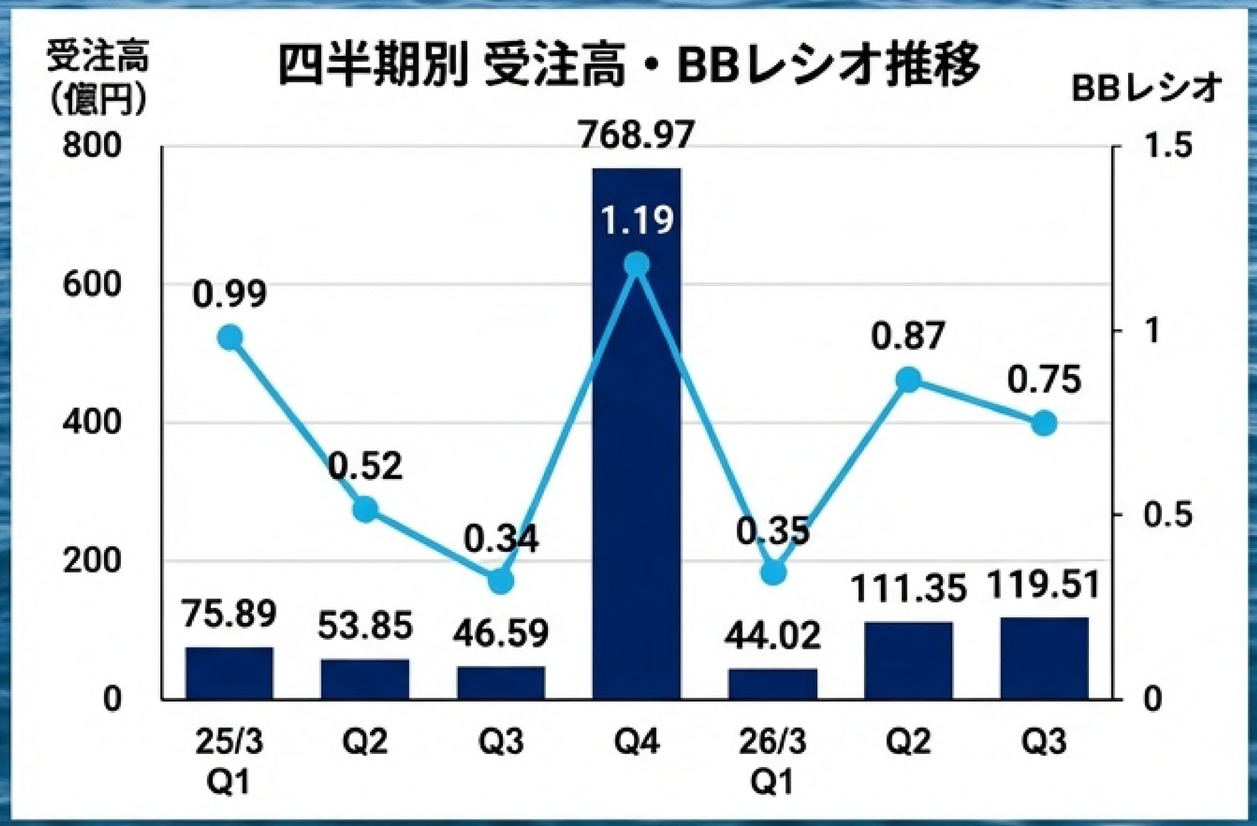
地域別売上：Q3累計推移



各国の変化（売上・利益動向）

各国の変化（売上・利益動向）
日本：大型、メンテナンス好調、利益は高採算案件の反動減で11.9%増収、9.7%減益
中国：大型一巡で31.8%減収、97.6%営業利益減
台湾：大型装置進捗遅れで35.2%減収、36.5%営業利益減
米国：大型装置拡大で3.6倍増収、営業利益21.6倍
韓国：工事進捗進むも戦略受注もあり2.4倍増収、10.6%減益

受注動向：メモリー市況回復を捉え、受注の「質」が変化



受注残高（26/3 Q3末）：
272.14億円

受注環境の変化：従来の「容量拡大」から「技術革新」へ。
HBM/先端DRAM：高度な水質管理が求められる先端プロセス向け案件が増加傾向。
中国市場：3Q累計受注高83億円（前年同期12億円から急回復）。
地政学リスクに伴う駆け込み需要と国産化投資を取り込む。

通期業績予想：進捗率順調、修正計画の達成確度は高い

典型的収益パターン

分析：3Q時点での営業利益進捗率約75%は、例年のパターンを考慮すると「上振れ余地」すらある高水準。減額修正後のハードルは十分にクリア可能。

セグメント別展望：WETS（装置）の完工集中とストック収益

WETS (装置事業)

- 米国・日本の大型案件が4Qに完工集中予定。
- リスク要因：工期遅れ（現時点で特段の報告なし）。
- 売上のボラティリティ要因。

メンテナンス（安定収益）

- 納入済み設備の増加に伴い、ストック売上は着実に積み上げ。
- 利益の下支え要因（高収益性）。
- 為替影響を受けにくい安定基盤。

26/3期 達成への両輪

地域別注視点：米国プロジェクトの収益認識タイミングが最大の変動要因。

NMS

競合比較：TSMCのオルガノ、総合力の栗田、爆発力の野村MS

栗田工業（6370）	オルガノ（6368）	野村マイクロ（6254）
• 総合力 • 安定配当 • ストック収益	• TSMCプロキシ • ロジック/ファウンドリ特化 • ハイテク	• サムスンプロキシ • メモリサイクル • ニッチスペシャリスト
PER 約29倍	**PER 約29倍**	**PER 33.3倍**
• ジェネラリスト / キオクシア	• TSMC能力拡大の追い風。	• ハイベータ / 回復狙い。

ポジショニング：オルガノがロジック（TSMC）の恩恵を受ける一方、野村MSはメモリー（Samsung）の回復サイクルで最大のリターンを狙う位置付け。超純水特化の技術力とアジアでの機動力が強み。

27/3期以降の展望：サムスン電子の設備投資再開とHBM需要

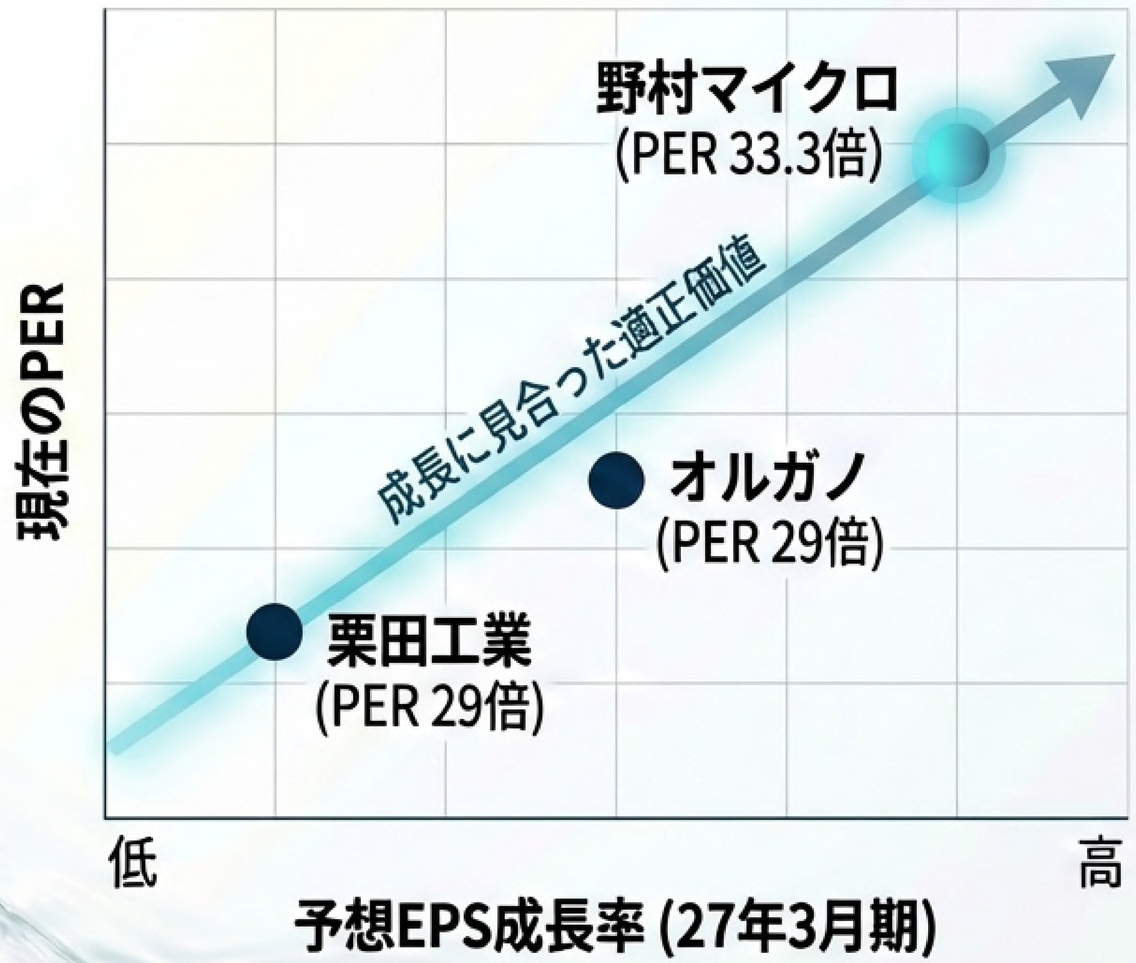
サイクルコンセプトチャート

HBM需要爆発 → 先端パッケージングニーズ → 超純水需要の高まり → NMS超純水技術優位性

- **サムスン電子の動向**：HBM（広帯域メモリ）競合追随のため、DRAM設備投資を加速させる公算大。
- **特定ユーザーリスクの裏返し**：過去の「集中度リスク」が、局面転換時は強力な「業績ドライバー」へ（逆レバレッジ効果）。
- **他社との違い**：変化率（Growth Rate）で競合を上回るフェーズへ突入。

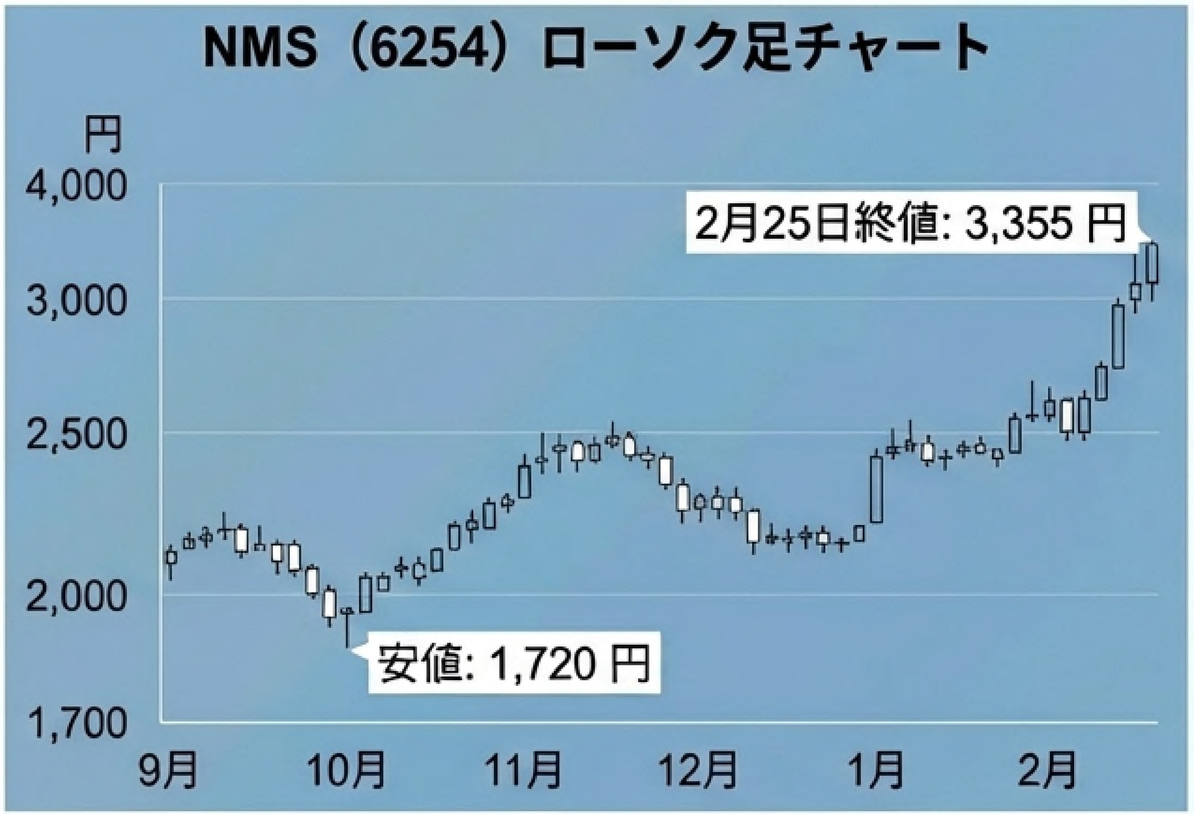
バリュエーション評価：割高感はあるが、変化率（Growth）が正当化

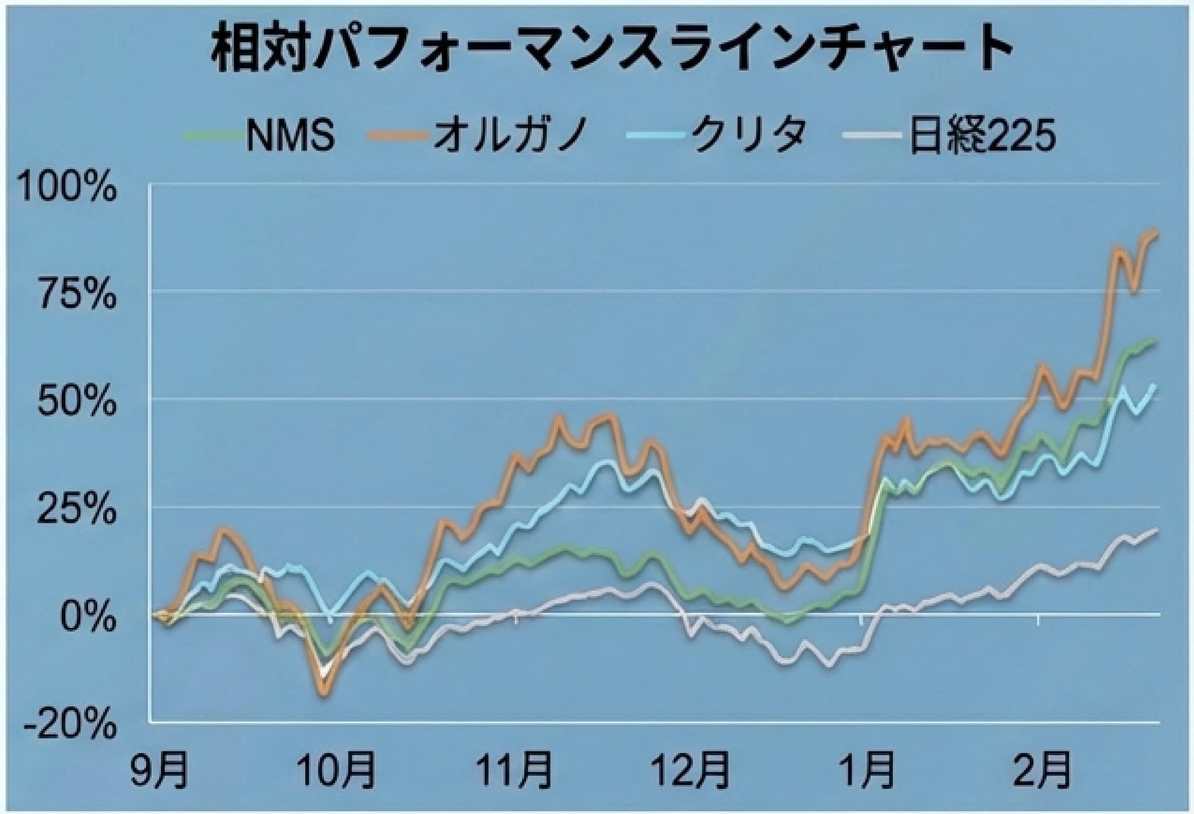
PERとEPS成長ポテンシャルの比較



- **現状認識**：プライム機械平均や競合他社（PER 29倍）に対し、野村MS（33.3倍）は**プレミアム**が付与されている。
- **正当性**：27/3期に見込まれる収益急回復（EPS成長）を考慮すれば、PEGレシオ等の観点で割高感は薄れる。
- **結論**：「今の数字」ではなく「**次のサイクルのピーク**」を買う動き。

総合評価「ややポジティブ」：27/3期の飛躍を織り込む局面





投資判断：ややポジティブ

- 26/3期業績の底堅さを確認（ダウンサイドリスク限定的）。
- サムスン電子・メモリー市況の回復という強力なカタリストが額長化。
- 競合他社に対するバリュエーション・プレミアムは、今後の高い成長率（変化率）で許容可能。

本資料は2026年2月25日時点の情報を基に作成されています。投資判断は自己責任でお願いします。